

<p>国語 4年C組</p>	<p>一 つ の 花 ～一つの花に込められた思いとは～</p>	<p>大谷 真喜子</p>
--------------------	-------------------------------------	---------------

1. 単元設定の理由

(1) 本実践の主張点

はじめに

道ばたで風に揺れるコスモスの花。私は、『一つの花 今西祐行作』に出会ってから、コスモスの花を目にするたびに「ゆみ子の家族」のことを想うようになった。

「十五年戦争」から61年の歳月がたった。日本では「戦争を知らない子どもたち」と歌われた世代が過半数を占め、戦争体験が急速に風化してきている。しかし、逆に年月を経て今、世界では戦争が現実の課題となってきた。だから私は、戦争の悲惨さ平和の尊さを発達段階に応じて子ども達に伝えていかなくてはならないと考えている。

父母からの戦争体験聞き取り、広島・長崎の資料館訪問、戦争文芸作品の鑑賞等は、「戦争を知らない子どもたち」の一人である私ができる風化防止策だと思うが、小学校教員としてできる有効な方法は、子ども達との戦争文芸作品の深い読み取りでは・・・と思っている。

私の目の前にいる十才になる子ども達にも今、あの悲惨な戦争の体験を結晶化したとも思われる『一つの花』を通して戦争を文学体験させ、戦争や平和について深く認識させたいと思った。

私は、コスモスの花を見るたびに戦争のもたらす悲しみ・悲惨さ、平和の尊さ、そして『一つの花』のゆみ子の家族の生き方、戦争によって奪われたもの・戦争でも奪えないもの等を子ども達に伝えていかなくては・・・と思うのである。

教材について

人命を奪い、肉親を引き裂き、町だけでなく文化や人間性までも破壊してしまう戦争。本作品は、そんな戦争という大きな流れの中で生きてゆみ子の家族の姿をありのままに描いた物語である。幼いゆみ子が最初に覚えた言葉は「一つだけちょうだい」である。満身に食べさせてやれない母親の悲しい思い。ゆみ子の将来を案じながらもどうすることもできない父親の悔しい思い。しかし、どんなに貧しい生活の中にあっても両親はゆみ子に対し深い愛情を注いだのである。

父親が手渡したコスモスの花にゆみ子は喜んだ。「一つの花」に託した父親の願いは母親の手で受け継がれ、十年後のゆみ子の姿に表れる。ここに描かれているのは、戦争を乗り越えて生きる小さな家族の愛の絆であり、誰もが侵すことのできない生命の尊さである。

『童謡集 太郎コオロギ』の“はじめに”に作者今西祐行さんは、「自分があたたかい心につつまれて育てられたことによって、どんな悲しい目にあってもくじけずにこれた気がする」ということや、「そんなたくさんたくさん、自分をつつんでくれたあたたかい心に感謝するきもちで書いたのが、この本である」ということを書いている。そんな作者の思いを心に、子ども達と読み深めたいと思った。

4年C組の子ども達

子ども達は、学力に多少の個人差はあるとしても、どの子も課題に対し真剣に学習する姿勢が見られ、仲間に対しても明るく素直な姿を表現できている。

本学級では、学校・教科研究主題に迫るべく、「感性を育て言葉の力を高める」というテーマを掲げている。1学期には、原田直友・金子みすゞ・草野心平の詩を活用した単元学習を展開した。詩の持つ特性を活かし、感性練磨、想像力と観察力養成、表現・作文力育成に取り組んだ。子ども達の姿の中にねらいに通じるものがいくぶんか育ってきた。

本年度4年C組の学習文化テーマを、『花を咲かそう！ 一人ひとりの一つの花&4Cの花』とし、教科・道徳・総合・特別活動の学習時間には、見つめ合える場、考え合える場、互いに表現し合える場を意図的に設定してきた。これらを通じ、聞き合い・表現し合い・次の課題にみんなで行く姿が学級の中に醸成されてきている。

作品『一つの花』は本学級にとり重要な意味を持つ。単に文学作品の読解に終わり「戦争反対」では終わらせたくない。「だいにするんだよう・・・」の言葉に込められた思いを感じ、「一つの花」の意味を考えることで、自分や人の命、平和な世界を大切にしようと思う子ども達になってほしいと願って取り組んだ。また、ゆみこに対する両親の愛情を読み取ることによって、自

分も親の深い愛情に包まれて育ってきていることを感じてほしいと思った。

今、生命を軽視する言動が多く見られる。人を脅かす様々な問題もある。だから、生命・人間のありよう・人間の真実についてしっかりと考えていく子ども達にしていきたいのである。

この教材を核にして他の教育活動とも関連を図りながら一人ひとりの一つの花がしっかりと咲くように、また、4Cの花も笑顔いっぱい咲くようにしていきたいと考えた。

指導にあたって

ゆみ子の家族をしっかりと目撃体験し、感想や思いを書いたり話し合ったりしながら、戦争の悲惨さ、又、戦争の強大な力をもってしても、親の子に対する愛情や美を美と分かる人間らしさ・人間の成長といった人間の真実は押しつぶせぬことを理解させたいと思った。

そこで、一人ひとりの子どもを本作品に『じっくり』向き合わせるために次の方法で支援した。

- 1、場面場面の読み取りを深めるための発問の工夫
- 2、発問から導き出された子ども達の反応を響き合わせるための繰り返し発問や指示の工夫
- 3、言葉や文章で感じたこと・考えたこと・疑問に思うこと・調べたこと等を書き込みながら自分なりの読みを持てるような『ひとり読み』の充実（ひとり読みが意欲的に取り組み、その子どもの学習の足跡が残るように“一つの花ノート”を用意）
- 4、初発の感想の分析と類型化、その利用
- 5、本作品の文章表現上の特色に着目させ、読み深める

さらに、他の教育活動との関連を意図的に図り、本教材を核にして生命の尊さについて読みを深めたいと構想した。

(2) 教科提案とのかかわり

教科提案（関連して伝え合い、「初読力」を育む ～自己変革を確かめながら～）との係わりを強く意識し指導する場面を、本作品での学習場面で一例示するなら次のことである。

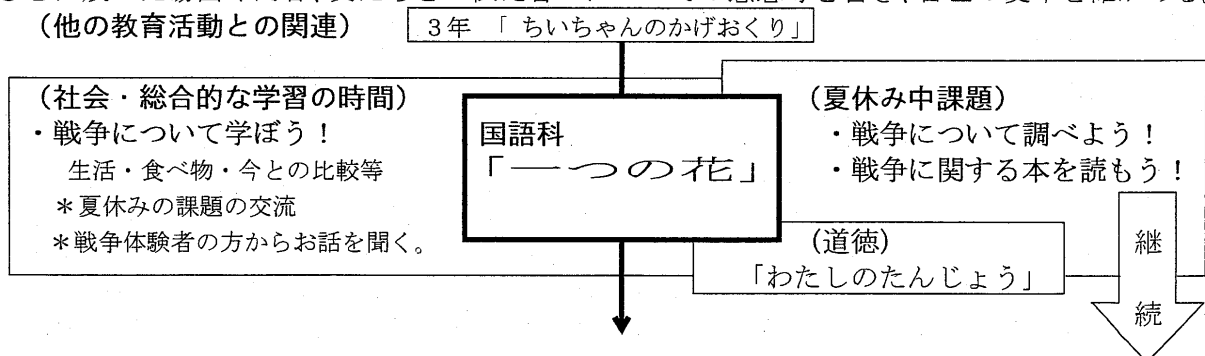
父が一輪のコスモスの花をゆみ子に渡す場面の読み深め、まとめ学習時の「一つの花に込められた思い」「一つの花」の意味を考えるとこである。

すなわち、前者での登場人物の心情への共感的理解がまなごしの交流となり、後者では全体学習で読み取った思いを本作品の主題（一つの花）理解にぶつける思考が自己変革を確かめさせることにつながると考えられる。これらから培われる子どもの力は、次の作品への初読力の育ちとなる。

2. 単元目標

- 登場人物の様子と場面の様子を、作品の中の大事な言葉に気をつけて想像しながら読む。
- 題名に込められた作者の思いについて自分なりの考えをもち、友達と伝え合い、考えを比べる。
- 読み取った登場人物の心情や場面の様子がよくわかるように声に出して読む。
- 心に残った場面や内容、友だちとの伝え合いについての感想等を書き、自己の変革を確かめる。

(他の教育活動との関連)



3. 単元計画 (全16時間+家庭学習)

第1次 (2時間) 「一つの花」に出会い、初発の感想を出し合おう！

第1時 ○初めの感想を書く。(初読力)〈読み聞かせ〉

第2時 ○題名から感じたことを出し合う。

○初めの感想の交流をし、学習で大切にしたい課題を設定する。



関連して伝え合い初読力を育む
| 自己変革を確かめながら |

第2次(3時間+家庭学習) ひとり読みをして自分なりに「一つの花」を味わおう!

*ひとり読みでの書き込み観点の指導を入れながら・・・

新出漢字・わからない言葉の意味調べをする。

調べたこと・聞いたことを書き込む。

自分の感じたこと・考えたことを書き込む。

友達と話し合いたいこと・聞きたいことなどを書き込む。

対比 比喩 修飾語 文末表現 指示語 接続語などにも着目する。

ひとり読み・話し合い・文章表現学習・学習の振り返り

第3次(7時間) みんなで読み深め「一つの花」の世界に浸ろう!

子どもの課題を中心に場面ごとに切実な体験をさせる。

ゆみ子・お母さん・お父さんの心情にせまる。

- 第1時 ○少しでも多く食べさせてあげたいと思うお母さんのゆみ子への愛情をとらえる。
- 第2時 ○ゆみ子をふびんに思い、将来を心配するお父さんとお母さんの愛情をとらえる。
- 第3時 ○お父さんも戦争に行かなくてはならない日。最後の別れになるかもしれないこのひとときを大事にしたいという家族の思いをとらえる。
- 第4時 ○プラット・ホームのはしの方で、ゆみ子をだくお父さんや、とうとう泣きだしてしまっただけのゆみ子をあやすお母さんの心情を考える。
- 第5時 ○「一つだけの花に込めたお父さんの思い」「ゆみ子のにぎっている、一つの花を見つめながら行ってしまうお父さんの思い」を想像する。
- 第6時 ○10年後のゆみ子一家の様子からゆみ子一家の10年間を想像する。
- 第7時 ○作者：今西祐行氏の「一つの花」に関する話を知ろう。

第4次(4時間) 「一つの花に込められた思いとは」「一つの花」の意味を考えよう!

第1時 ○「一つの花に込められた思い」「一つの花」の意味を考える。(本時)

第2時 ○終わりの感想を書く。

第3時 ○終わりの感想の交流を通して本単元を通しての自他の変革をみつめる。

第4時 ○4C「一人ひとりの一つの花&4Cの花」感想文集を作成する。

4. 単元の考察

(1) 主張点とかかわって

*「ひとり読み」の足跡がわかる書き込みノート「一つの花ノート」の制作は、読み深める上で有効に機能した。ノートに自分で感じたこと考えたことを書く。伝え合う中で感じたこと考えたことを書く。これらの作業の繰り返しは、子どもの言葉や文章への深い読み取りを生んだ。書くことが苦手な子どもへのスキル指導にも工夫を加えたことは有効だった。

*一人ひとりの初発の感想の分析及びその類型化は、場面場面の読み取りを深める発問・響き合いを生む切り返し発問の工夫や指示へと結びつき有効だった。

*本作品の持つ表現上の特色(文末表現、疑問形による読者への問いかけ、比喩表現、対比表現、有効に配置されている指示語・接続語)に着目した指導は、子どもの言葉や文章へのこだわり・読みの深まりにつながった。

*学習主題に係る子どもの初発の感想を意図的に発問として提示することを意識した指導は、読みを深めることへの導きとして有効だった。『ゆみ子は幸せだ』への繰り返し発問『十分に食べられないゆみ子、父をなくしたゆみ子、こんなゆみ子は本当に幸せ?』は、親子の絆、ゆみ子を大切に思う素敵な両親の姿を深く読み取ることにつながった。

*本学級学習文化の向上を本教材で図ることができると主張した私には、本教材の丁寧な指導展開により、その目標を後の子ども達の学習活動の中に確認することができ、満足している。それは、社会見学体験学習時の子どもの日記に「蒔絵体験で、最後に空いているところに『名前、日付』と『一つの花』と書きました。なぜかという、私が描いたのは花だったので、私も自分の花を咲かせようと思って『一つの花』と書きました。」と書かれていたことや日々の子どもの表現活動の中に、『まなざしが響き合う』姿として、また『意味と内容が広がる』取り組みとして自覚できるようになっている。

(2) 互いのまなざしが響き合う姿は

例えば5の場面で「一つだけの花に込めたお父さんの思い」、「ゆみ子のにぎっている、一つの花を見つめながら行ってしまうお父さんの思い」を想像し伝え合った後の感想には、「ぼくは、C19君の意見を聞いて、ぼくも花がどこに咲いてあろうと花は花という意見になりました。ぼくは、みんなの意見を聞いたり、自分の意見で、お父さんはすごくやさしい人だと思いました。だってプラットホームのはしっぽのごみすて場のような所に忘れ去られたように咲いていたコスモスの花を見つけたんだから。ゆみ子を泣きやますために必死にさがしたんじゃないかなあと思いました。」「C16ちゃんの意見やC4君の意見は、私の意見ににているけれど、C16ちゃん達の意見は、目にうかぶ意見です。」「ぼくは、この学習ですごく自分の考えが深まりました。お父さんがゆみ子にあげるコスモスのやさしさがありました。ゆみ子を喜ばしたいというやさしさがありました。お父さんもお母さんもゆみ子が好きだと思います。」など友達の意見を聞いて自分が深まったことがわかる表現が多く書かれていた。この時間の終末では「自分なら『一つの花』の〈花〉のところを何という言葉にするか?」の質問に対して子ども達は、“笑顔”“命”“やさしさ”“喜び”“ゆみ子と父の花”“思い出”“幸せ”“心の花”・・・などたくさん自分の思いを出した。子ども達は友達とも作品とも響き合っていたと感じた時間だった。

また、研究会本時の学習のために保護者の方には“我が子へ”の手紙を書いていただいた。ゆみ子がそうであるように、本学級の子ども達にもあたたかい親の愛情を感じてもらいたかったから。子ども達は思いがけない手紙に感動し、何度も食い入るように読んでいた。C20が、「みんなの前で自分の手紙を読みたい。」と言い、喜びいっぱい読んで、「一つの花に込められた思いとは」「一つの花の意味は」をみんなで話し合った本時の終末に、子ども達の心に感動が響いた。静かに落ち着いた雰囲気の中、一人ひとりがじっくり考え・語り合う響き合う姿があった。

ある女兒は、「この学習をして私はすごく伸びたと思います。勉強をする前の自分と比べると、とっても伸びました。これからもこのことを生かしてもっとがんばりたいです。」と単元最後の感想に書いてあった。

5. 成果と課題

明確で具体性に富む発問を意識しながらも、伝え合う学習は教師のでしゃばりを極力抑え、子どもの考えや感じたことを聞くことに徹することが大切であると改めて強く感じた。

初発の感想の交流に始まり、各時間の学習で生み出された子ども達の次時への学習課題の把握は、焦点をしぼった話し合いによる読み深めに活かすことができた。各時間での授業の振り返りを確実に進めたことは、子ども達に自己変革を意識させるのに有効だった。

提案授業後の研究協議会で助言の先生から、「子ども達の反応や出た意見からすると、よかったのかと思えるが、『一つの花に込められた思いとは?』の発問をずばり学習者に与え、反応を求める指導でもよかったのでは?」と助言を受けた。これには私も納得である。私は、補助発問を入れてから主発問を行った。が、初めから主発問を投げかけ、補助発問によって子ども達がそれまでの学習で掴んだ読み取り内容をもとに自分の意見の補助説明をしていけるようにしていけばよかったと思う。なぜなら子ども達は、私の想像以上に感性豊かに読み深めていたのである。